

第3号議案 第25期事業計画（2024年7月～2025年6月）

2020年に設立したNORAは、今期で25周年を迎える。そこで、私たちの活動の源流をたどると、それは舞岡の谷戸の公園づくりに象徴される1980-90年代の里山保全運動にさかのぼることができるだろう。この運動は、都市住民が身近な自然に関わりながら、自らがコミュニティをつくる当事者となり、現代のコモンズを主体的につくりだす運動であった。第25期は、この活動の原点を思い起こし、地域ごとに個性ある里山コモンズの保全・再生と持続可能なコミュニティづくりをすすめるために、「里山とかかわる暮らし」を自ら実践し、社会に向けて提案していきたい。

グローバルな環境問題に目を向けると、2030年までに生物多様性の損失を止め、回復傾向へと向かわせる「ネイチャーポジティブ」と、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質的にゼロにする「カーボンニュートラル」を実現することが、国際的な目標となっている。地球規模の課題を前にすると、NORAのような小さなNPOが環境や社会に与える影響は非常に小さいように見える。だから、私たちは活動の量よりも質にこだわりたい。特に、活動をすすめるプロセスにおいて対話を重視したい。それは他者との対話だけではなく、自然との対話、歴史との対話、自分との対話も含む。一方的に話すのではなく、対等に話し合う場を作ること、聞くために耳をすませることを意識したい。

NORAの運営メンバーは固定化・高齢化してきており、内部の人材養成や他団体との協働・連携を計画的に進めていく必要がある。しかし、その前に、あらためてミッション・ビジョン・バリューの確認や、2030年時点のありたい姿を想像しながら、NORAらしい中長期計画を描きたい。

第25期は、下記3つの重点方針を掲げつつ、定例の自主活動（ヤマ・ノラ・ムラ・ハレ・イキモノ）をすすめることで、「根を持つことと翼をもつこと」を両立させていく。

①コーディネーターを中心とした「はまどま」活用の推進【ムラ】

「はまどま」が「街なかの里山の入り口」としてよりよく活用されるように、コーディネーターが中心になって新しい参加者・担い手を増やしていく。神奈川県のボランタリー団体成長支援事業「パブリックリレーションズ・サポート・プログラム」の支援を受けて、「はまどま」からの情報発信に入れるとともに、興味関心のある人と対話を重ね、その人のポテンシャルを引き出しながら、1つひとつの企画を練り上げていく。将来的には、活動拠点として「はまどま」が成熟していく中から「はまどま」のホームページが立ち上がり、さらにコモンズとして「はまどま」が新たな担い手を含めて自主的に運営されていくかたちを目指す。

②都市近郊における里山保全モデルづくり【ヤマ】

現在の里山保全活動は、ボランティアの高齢化によって継続することが難しくなっているところが多いことから、セミプロや複業として関わる担い手を想定し、人材育成を図って

いくという方向性が見えてきた。また、特に都市近郊の里山では、資源を直接利用するのではなく利用体験をサービスに変えて付加価値を高めたり、里山を空間として利用したりすることが必要になっている。こうした背景を踏まえて、川井緑地では保全管理計画に基づいた活動を進めるとともに、グリーンウッドワークの普及にも努めながら、里山生態系の保全、発生材の有効利用、山仕事の担い手育成の点において、都市近郊における里山保全のモデルづくりを進める。

③新規事業の立ち上げと従来事業の総点検

NORA らしい中長期計画を描くことと並行して、これまで展開してきた自主事業を総点検し、NORA が今後力を入れて取り組むべき事業の柱を明確にしたい。その際、内部メンバーの力だけに頼るのではなく、他団体との新たな協働・連携を促進するための支援制度を検討し、今期内に運用を開始したい。

■自主事業

1. ヤマ事業

- 1) NORA の山仕事 {別紙計画書のとおり}
- 2) 竹を活かす山仕事 {別紙計画書のとおり}
- 3) よこはま里山レンジャーズ（連携：認定 NPO 法人自然環境復元協会） {別紙計画書のとおり}
- 4) 都市の里山の活用推進（令和 6 年度「緑の募金」公募事業） {別紙計画書のとおり}
- 6) まちの近くで里山をいかすシゴトづくり

「里山とかかわる暮らし」と「里山をいかす仕事」の両立を求め、環境 NPO 運営スタッフ懇談会を定期開催し、バックオフィスの効率化とともに事業協同組合の可能性を探る。

7) 安全で楽しい森林づくり活動を指導できるリーダー養成事業

(主催：モリダス、令和 6 年度「緑と水の森林ファンド」)

モリダス主催事業と共に開催するかたちで人材育成事業を実施し、安全で楽しい里山保全・森林づくり活動を指導できる現場リーダーを養成するほか、横浜・多摩地域の活動団体のネットワークを強化する。

2. ノラ事業

- 1) 森と畠と音楽と {別紙計画書のとおり}

3. ムラ事業

- 1) はまどまプロジェクト
 - (1) もったいないから竹細工 {別紙計画書のとおり}

- (2) はまどまで土間仕事 {別紙計画書のとおり}
- (3) 『食べもの通信』読者会 {別紙計画書のとおり}

2) 地域連携・ネットワーク

南区役所、宮宿花1・2丁目町内会、蒔田公園愛護会、フォーラム南太田、陸地域ケアプラザなど、蒔田地区周辺の公共機関・団体との連携を深める。また、横浜コミュニティカフェネットワークの一員として、ネットワーク活動に協力する。

4. ハレ事業

新規プロジェクトの立ち上げを促し、25周年記念事業へと繋げる。

5. イキモノ事業

1) トンボはどこまで飛ぶかフォーラム

フォーラムの一員として森里川海と連携し、生物多様性保全に繋がる活動を実施する。

6. 広報事業

1) ウェブサイト更新・メールマガジン配信・SNSによる情報発信

ウェブサイトと連携しながら、定期的に「里山と暮らしをつなぐメールマガジン」を配信して、効果的に情報を発信する。また、SNSを利用して柔軟かつ迅速な情報発信に努め、特にストーリーやショート動画など、動きのある素材を有効に活用していく。

2) 活動報告書の作成

2024年の活動報告書を作成し、年末に年会費の依頼とともに会員に送付する。

協働・受託事業

適宜、社会のニーズに応じて協働・受託事業を進める。また、ボランティア体験、インターナーシップの受入は、可能な限り引き受ける。

- ・森づくりボランティア体験事業業務（横浜市環境創造局）
- ・保育所・小中学校等ビオトープ整備等支援業務（横浜市環境創造局）
- ・道具の使い方研修・森づくり安全管理研修・入門講座企画実施業務（横浜市環境創造局）
- ・長浜公園トンボ池管理等業務（横浜市緑の協会）
- ・根岸森林公园トンボ等調査（横浜市緑の協会）
- ・野島公園ビオトープ環境改善業務（横浜市緑の協会）
- ・トンボとり大作戦開催業務（横浜植木）

委員・講師派遣

行政・NPO・大学等からの求めに応じて、里山保全や市民活動等に関する委員・講師を派遣する。